



埼玉県
関越道
東京都
中央道
発生場所
空洞
工事中区間
予定路線
東京外環道
千葉県
東名高速
東京湾
N

東京外かく環状道路（外環道）のトンネル工事ルート上にある東京都調布市の住宅街で、陥没や空洞が発生した問題を受け、東日本高速道路はシールドマシンによる掘削工事を一部区間、今後一年間凍結し、地盤補修を優先する方針を固めた。複数の関係者が明らかにした。関越道と東名高速をトンネルで結ぶ事業の完了は、大幅に先送りされる事態になった。（花井勝規、梅野光春）



シールドマシンの通過したルート
1月14日に確認された空洞
昨年10月18日に確認された箇所
昨年11月21日に確認された空洞
シールドマシンのルートと陥没空洞
調布市東つつじヶ丘2丁目
入間川
20m
N

同社は本紙の取材に「住宅や地盤の原状回復を優先する。工事の長期化はやむを得ない」と説明した。計画では、関越道大泉ジ

東日本高速 補修優先



外環道のトンネルを掘削しているシールドマシン=2019年1月、東京都練馬区で

ヤンクション（JCT）、練馬区）と東名高速の東名JCT（仮称、世田谷区）を、南北約十六キロメートルで結ぶ。計七基のトンネルが、昨年十一月の開通以来、南北約十六キロメートルで掘削が進められていたが、昨年十月の

陥没発生後はすべての工事を休止している。

一年間凍結するのは、東名側から北に掘り進めてきた「東名北工事」と呼ばれる二本のトンネル工事のうちの東日本高速が担当する

調査結果を発表した。

これを受けて、同社は調布

市内のルート上約三百六十メートルの範囲で、トンネル掘削によって生じた地盤の緩み

北行きの二本目のトンネルの工事が再開されるかどうかに移った。再開されれば、軟弱地盤の現地で、同様の被害が繰り返されかねない」と不安を募らせる。

二本目のトンネルを掘削発防止策を踏まえ、工事の

調布市東つつじヶ丘三丁目の松原通り付近で、あと数百メートルでマシンによる振動で

家屋に損傷被害が発生した

工事を担当する中日本高速道路は「東日本高速の有識者委員会が月内に出す再開時期など大深度地下使用法に基づく地下トンネル工事の見直し論が強まる可能性もあり、慎重な姿勢を取っている」とみられる。昨年九月以来の振動被害

と述べるにどどめている。双方のトンネル工事が長期間止まれば、リニア中央新幹線など大深度地下使用法に基づく地下トンネル工事の見直し論が強まる可能性もあり、慎重な姿勢を取っている」とみられる。昨年九月以来の振動被害

調布陥没・空洞を巡る経過

2020年 9月中旬	調布市東つつじヶ丘2の住宅街の地下を外環道のトンネルを掘削するシールドマシンが通過
10月18日	住宅街の市道が幅5メートル、長さ3メートル、深さ5メートルにわたって陥没
19日	東日本高速道路が専門家らを集めた有識者委員会を開き、原因調査に着手
27日	原因を探るボーリング調査を開始
11月 3日	ボーリング調査で陥没現場近くの地中に長さ30メートル、幅4メートル、高さ3メートルの空洞が見つかる
21日	地中に2カ所目の空洞が見つかる
12月18日	有識者委員会が「陥没はトンネル工事が要因の一つ」と中間報告。東日本高速は記者会見で陳謝し、家屋に被害を受けた住民に個別に補償する方針を表明
21年 1月14日	3カ所目の空洞が見つかる
2月12日	東日本高速が原因について「特殊な地盤と施工上のミスが重なった」との見解を示す。緩んだ地盤を2年かけて補修する方針も表明
3月	東日本高速がトンネル工事を2年凍結する方針を固める

並行する北行きの工事 焦点

（花井勝規）

の工事の振動はもっと大きくなる」「中日本高速が東日本高速と同様に工事を凍結するかどうかが分からなかった」、「対策をしないと一本目の工事の振動はもっと大きくなる」と日本高速が東日本高速と同様に工事を凍結するかどうかが分からなかった。

日本高速と同様に工事を凍結するかどうかが分からなかった。

日本高速と同様に工事を凍結するかどうかが分からなかった。